

令和元年度 第8回沼田市市民構想会議の概要について

- 1 日 時 令和2年2月20日（木）午後2時から午後4時10分
- 2 場 所 沼田市役所 第2委員会室（テラス沼田5階）
- 3 出席者
 - （1）委員 林 勝男委員、生方秀二委員、岡嶋稜子委員、小野里順子委員、角田郁子委員、六本木勇治委員、林 康夫委員、小林 好委員、鈴木 誠委員、長沼裕子委員、原口庄二郎委員（11名）
 - （2）アドバイザー 篠田 暢之氏
 - （3）沼田市 五十嵐副市長、川方総務部長、石井市民部長、小池健康福祉部長、坂田都市建設部長、藤井教育部長、生方産業振興課長、山口観光交流課長
（事務局：矢代企画課長、武井補佐兼企画係長、千明副主幹、小野里主事）
- 4 配付資料
 - 次第
 - 第7回沼田市市民構想会議の概要について
 - 第2期「総合戦略」＜地方創生の目指すべき将来＞
 - 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3版）※現行戦略
 - 各検討テーマの主な意見
 - みなさんが、一番幸せな暮らし
- 5 概 要
 - （1）開会（事務局：企画課長）
 - （2）会長あいさつ（生方秀二会長）
 - （3）前回の会議結果について（事務局：企画課長）
 - 「第7回沼田市市民構想会議の概要について」により説明した。
 - （4）議題
 - 1）第2期「沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について
＜審査概要＞
 - 第2期総合戦略の策定に向けて、現行の総合戦略と国における第2期総合戦略の概要を元に意見を伺った。

< 質疑及び主な意見 >

- K P I は K G I に基づいて設定されていると思うが、その動機がないため、K P I が適切なのか分からない。その部分の説明を入れた方がいいと思う。
- 現行の総合戦略 6 ページには目標 1 の「安定した雇用を創出する」ことに向けた施策を載せており、その中の「施策 1-1 地域産業の競争力強化」についての K P I を示しています。こちらは現行の総合戦略に対しての指標であり、それぞれの目標を示していますが、これらを元に次期総合戦略を策定する段階のため、それぞれの事業に対して、K P I 等が設定できておらず、現在、同じような形で策定をしていますが、その前段として現在の総合戦略に対しての意見をお願いしたいと考えています。
- 何をゴールにして進んでいるのか分からない状況では議論が難しいというのが現状だと思う。そのために K P I 等が設定されているはずなので、そこをしっかりと説明してほしい。
- 今回、第 2 期総合戦略の策定にあたっては、施策ごとに目標とすべきものについては、K P I を設定しますので、その中で整理したいと思います。
- 高齢化が問題になっている中で、医療・福祉・介護に対するテーマが見当たらない。この地域は、医療・福祉・介護分野の取組の多くが民間主導型になっていて、市での取組があまり見られないので、そういったものを総合戦略の中に取り入れてはどうか。
- 第六次総合計画の中には医療・福祉・介護分野など全般的な施策を掲載していますが、まち・ひと・しごと創生総合戦略については、人口減少に特化した内容になっており、子どものための医療を中心にまとめています。
- 「施策 1-1 ② 林業、木材・木製品製造業の振興」に「森林文化都市沼田として林業、木材・木製品製造業の再興を図る」とあるが、取組内容としては、これをやれば人が集まる、お金が増えるという視点で書かれている。「産業」というとお金を増やすということが優先されるのかもしれないが、「文化」はそれだけではないので、もっと沼田の自然を楽しむような企画があってもいいのではないか。
- 雇用を拡大し、市内で働くことにより転出を抑制するという考え方の中では、木材・木製品等を活用した産業の育成・創出に努めることとして、まとめていますが、再度整理し、取り組める内容があれば盛り込みたいと思います。
- 「施策 4-2 ③ 各地域における拠点整備と地域自治組織の設置」について、これからは市民協働が必要な社会になると思うので具体的な説明をお願いしたい。
- この部分については、次期総合戦略でも継続していく内容となっています。特に地域自治組織の設置については、少子高齢化の影響により、小規模な行

政区では、住民だけで共同作業などの地域づくり活動を行うことが困難な状況になっているため、それを個々の行政区の活動としてではなく、地区などのもう少し大きな枠組みとしてまとめられないか検討しているところです。現在の行政区をゼロから再構築して大枠にするということではなく、現在の行政区を残しながら、それをもう少し大きな枠組みでまとめ、まずはモデル地区の設置などを検討しながら地域づくり活動を進められないかと考えています。

- 自立的な地域づくりを市民が自覚して取り組んでいく必要がある。これにより住民自らが地域をつくり、足りない部分は行政との協働という仕組みになり得ると思う。住民だけでどこまでできるのか、行政との協働によりどこまでできるのかという中で、取り組みを発展させていくことが大切なのではないか。
- 人口減少により、存続不可能に近い状態になる地域が出てくるのは遠い未来ではないと思う。沼田市以外にも高齢化が進み、地域での共同作業を放棄しようという地域も出てきている。人口減少が進み、地域コミュニティが衰退しつつある中で、拠点として、地域の核となるところをいくつか作っていく必要があると思う。特に人が少なく、若い人がいなくなってしまった中山間地域等を視野に入れた取り組みを検討すべきである。
- 土地の管理を考えるとやむを得ないところがあるが、過疎地域では太陽光発電のソーラーパネルが次々と設置されており、景観を阻害しているように感じている。
- 「施策4-2④ 都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成」について、人口が減少している中山間地域をどのようにコンパクト化して、周辺とどのように結びつけるかが重要だと思う。中山間地域では、住民が集まって顔を合わせることも困難になりつつあるため、今後消滅する可能性もあると思う。
- 高齢者が車に乗らなくても金融機関を利用できるように、農協では金融移動店舗車を毎週運行しているが、いつまで継続できるのか分からない状況にある。中山間地域に住む人が生活しやすい仕組みをつくり、手を差し伸べる方法を考えることが必要であると思う。
- 人口や年齢層も含めて行政区を見直し、公民館等の地域の拠点となる施設を選び、その近くで地域を作り直すという発想があっていると考えている。
- 地域の人々が生き生きと楽しく過ごすためには、SDGsの考え方が必要になってくると思う。そうした考え方も取り入れつつ、地域を活性化していく方向に導けることが理想的であると思う。
- 過疎地域には魅力がたくさんあり、また、過疎地域の先には他町村の集落もあるので、住むところは集中させても良いと思うが、資源の活用という部

分で新しい拠点づくりを考えても良いと思う。また、今後は隣接した地域との連携を推進していく必要があると思うが、広域行政や広域連携などの取組を沼田市でも進めているのか。

- 消防やごみ処理など事務の共同処理については、連携して進めていますが、施策単位での連携はそれぞれの考え方があるため、まだ大きく課題として残っています。また、外部に向けて利根沼田地域のブランド力を発信していくことも考えられますが、そうした連携はこれからになります。
- 市内の過疎地域が衰退してしまうとその先にある他町村の集落にも悪影響があるので、利根沼田地域の市町村が役割を分担して連携できると今後の展開も見えてくると思うので、民間も加えて、持続可能な地域づくりにつながるようなことを住民同士で話し合う機会があってもいいと思う。
- 「施策1-1④ 農業後継者・新規就農者を増やす」とあるが、中山間地域では小規模農地が多く、農地の利用集積を進められなければ採算が合わないのが現実的には難しいのではないかと。
- 利根町の小水力発電の取組について聞きたい。
- 自然エネルギーの活用として、農業用水を活用した小水力発電の導入について検討を進めているところです。
- 市はコミュニティの見直しなどは考えていないのか。
- 担い手の高齢化が進み、次の世代がいらないため役員を同じメンバーが交代し、務めるという地区もあると思います。お互いの顔が見える形をベースとして残しておく必要があると思いますが、地域全体を目配りしてコントロールするような組織のあり方は、現在の枠組みで維持していくことはおそらくできないと思いますので、もう少し大きい枠組みでお互いに支え合うことが必要になってくると思います。地域で主体的に取り組んでいけるような枠組みを目指してこれから検討していく予定です。そのため、それら所管する新しい部局を作り、コミュニティ施策、区長会を含めてどのようなやり方がいいのか議論しながら検討していく予定です。
- 同じ町内であっても、旧来の住宅地と新興住宅地では状況が異なっており、旧来の住宅地では高齢化が進み、役員を選出や町内行事への参加が難しくなっている。
- IT化が進む中、市の中心とその周辺のコミュニティが画面を通じて、交流できるような発想があっても良いのではないかと。また、例えば公民館等に設置したパソコンから必要なものを注文できるようにするなど、お年寄りが遠くに出かけなくても欲しいものを購入できるような発想があっても良いと思う。

2) 市長への提言テーマの検討について

<事務局>

- 「各検討テーマの主な意見」をもとに、全4回の会議の中で挙げられた意見について説明した。
- この議題については、アドバイザー篠田暢之氏にコーディネートしていただく旨を説明した。

<アドバイザー>

2020年度の4月以降、一部委員の交代がありますが、基本はこのメンバーで2年分の議論をまとめて市長に提言するということになります。今年度は4つのテーマでそれぞれ意見をいただきましたが、2020年度の議論では、まずこのまま4つのテーマでいくのか、もう少し問題点を絞った上でテーマ設定をするのか決める必要があります。皆さんがどういうテーマで残り1年間、徹底議論したら良いとお考えなのか、発言いただければと思います。

<主な意見> ※ “➤” はアドバイザーによる意見の要約

- 子どもの運動能力が、沼田市は県内で極端に悪いという話があるので、指導者の育成やスポーツ施設の整備を進め、子どもが暮らしやすく、また、子育てがしやすい沼田市になるような提言をお願いしたい。
- テラス沼田は、アルファベット表記されているだけで、高齢者や市外から来た人には市役所だと分かり難いので、分かりやすくしてほしい。
- 沼田市では、子どもを大切にしている一方で、文化や高齢者が軽視されているように感じるので、文化を大事にし、高齢者が活躍できる拠点を作っていただきたい。
 - 文化を中心に議論を深堀する
- 低価格で簡単に自宅まで呼べる乗り合いタクシーがあると高齢者も安心して生活できると思うので、高齢者のための交通手段の充実を図ってほしい。
 - 高齢者対策の一環としての交通体系の再検討
- 単純に持続可能な地域づくりを目指すということではなく、人々が希望を持って暮らし続けられる方向で取り組んでいただきたい。特に若者が希望をもって暮らせる地域にするためには、「行政と地域・民間の協働」ということに尽きると思うので、これを軸にした議論を進めていきたい。
 - 持続可能な地域づくりの具体化
- 農業従事者を育て、脱落させない取組を進めてもらうことが農地を守ることにつながると思う。また、地域にとってもそうした人々が残ってくれることで地域の担い手の確保につながると思う。
 - 農業後継者を含めた地域農業振興問題

- 廃業した宿泊施設が増加しており、周囲に悪影響を及ぼしているので、それをどうするか具体的に議論したい。
 - 地域課題の具体的な解決策の検討
- 少子化よりも高齢化社会に視点を向け、地域に住む高齢者が生き生きと暮らせる社会を作れるのかという部分を重点的に提言していきたい。
 - 高齢化社会の暮らしの質の向上（QOL）
- 沼田市として「花のまち構想」のような宣言をして、各団体の活動の中に花を植える取組を入れてもらうことで、一斉に花のまちにできるのではないか。
- 地域で積極的にまちづくり活動を行うプレイヤーを育てる講演会や勉強会などの仕組みがあってもいいのではないか。
 - まちづくりのリーダー養成と実践的取り組み
- 移動販売車があると周りにお店がなくても便利だと思う。
 - 地域弱者からの視点を再考（命と暮らしに優しい街づくり）
- 利根沼田地域全域を網羅した広域的な観光パンフレットの作成を考えてもらいたい。
- 市民構想会議の目的は20年、30年先のヴィジョンを作り上げていくことだと思うが、話し合いになると目の前のことについての議論になってしまうと思う。意見を短期的課題、長期的課題に分類し、長期的な課題について重点的に話し合ってはどうか。
 - 20年、30年先の長期的構想に特化して議論

<アドバイザー>

貴重な意見をありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、一旦、お預かりし、今後の進め方などを事務局と協議させていただきますので、よろしくお願ひします。

3) その他

<六本木委員>

- 「利根沼田まち映画」の募集が3月から始まる予定との紹介があった。

<事務局>

- 4月に委員の確認をした後、令和2年度第1回の会議について通知する旨を説明した。

<五十嵐副市長あいさつ>

1年間会議にご参加いただき誠にありがとうございました。一部の委員におかれては今回の会議が最後という方もおられますが、それぞれの立場で抱えている課題、地域の実状について話される中で、この課題をどう受け止めて、どう未来

につなげていけば良いのかと思いつながら聞かせていただきました。

その中で関連すると思いますので、紹介させていただきますが、行政としては持続可能なサービスを提供していかなければならないため、本日も周辺市町村との広域連携についての意見がありました。行政サイドでも定住自立圏構想という取組を進めています。中心市である沼田市と、近隣の町村がお互いに契約を結び合う形で、地域住民が安心して暮らせるサービスをお互い兼務し合う制度をこれから進めていき、大きな枠組みで取り扱った方が効率的なこともあると思いますので、そういったものは連携の中で対応していきたいと考えています。

また、地域のコミュニティについては、お互いを支え合い、地域で安心して暮らしていけることがベースになると思います。コミュニティの充実に関して所管課を設け、そこでコミュニティ施策を充実していく方向で議論をする予定です。また、その拠点となるべき地区公民館は現在、社会教育施設という位置づけですが、これについても柔軟に使えるように、そのあり方を見直していきたいと考えています。社会教育施設の枠を外して、生涯学習、文化、体育、スポーツ、高齢者の集まりなど、いろいろな形でうまく活用していければ地域の支え合いがうまくいくのではないかと考えています。

短期的な課題については行政サイドで受け止めて解決していくとして、今後の市政運営に何が必要なのかの議論と、それをこちらができるだけ受け止めて具体化していくというのがこの会議であると思っておりますので、長期的な課題としてやるべきことについての皆さんからのご意見を踏まえ、施策に反映していきたいと考えていますので、今後ともご協力をお願いします。

(5) 閉会（事務局：企画課長）